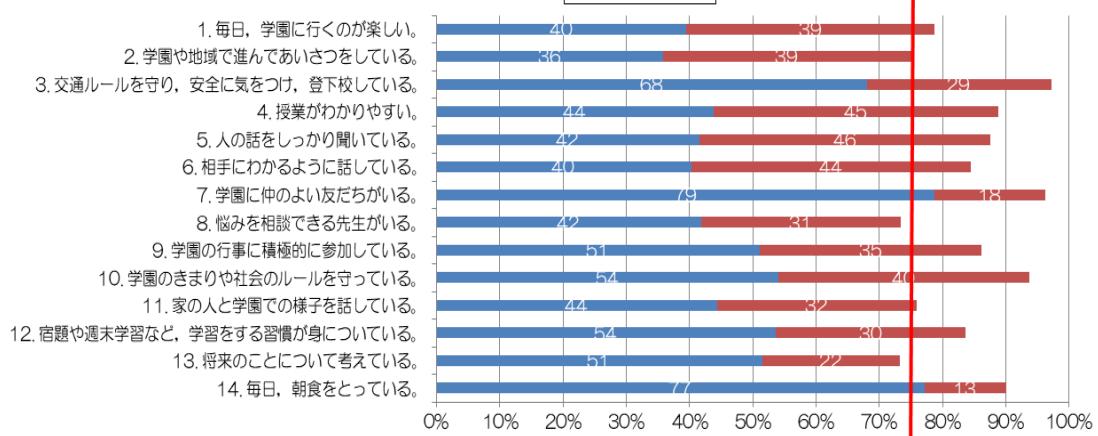


後期学園評価アンケート結果

令和2年
1月実施

学園生

適合度



基準ライン

結果の見方について

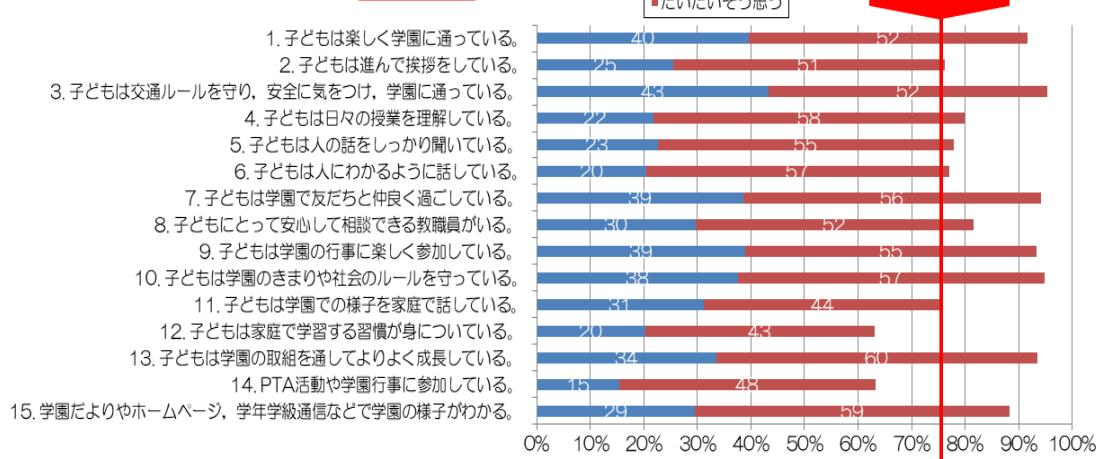
- 学園生・保護者・教職員の適合度について、アンケートを実施しました。
- 肯定的な回答のみ（横棒グラフの左から「そう思う」「だいたいそう思う」の順）をグラフ化し、75%を判断の基準としています。

結果をもとにした考察

- 毎年、学園生・保護者アンケートでの「交通ルールを守り、安全に気をつけ、登下校している」「学園のきまりや社会のルールを守っている」の肯定的な回答が高く、日々の教育活動の中で、学園のきまりや社会のルールの重要性を理解し、規範意識が高まっていることがうかがえます。
- 「学園や地域で進んであいさつをしている」結果から、学園生が進んであいさつをしているとは言いがたい現状があります。そこで、上の学園生や教職員が良いモデルとなったり、児童生徒会と連携したりして、学園生が常にあいさつを意識できるようにしていく必要があります。そして、家庭や地域の方々と協働してあいさつを励行していく必要があります。
- 家庭学習のあり方にについて、重点的に取り組んだ結果、学園生アンケートでは前期より肯定的な回答は高まったが、引き続き、課題としてとらえ、学園と家庭が連携し、基本的な生活習慣の中に、家庭学習の時間を位置づけたり、学習環境を整備したりして、学習習慣の定着を図る必要があります。

保護者

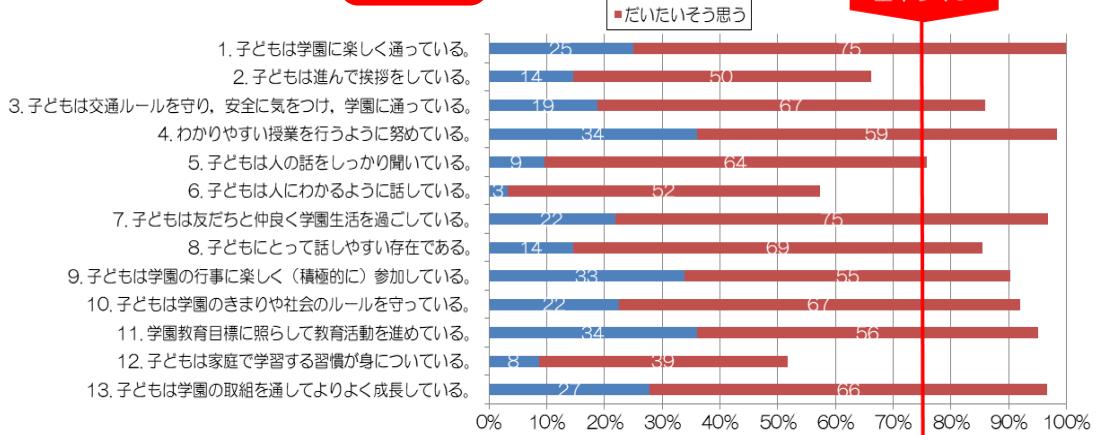
適合度



基準ライン

教職員

適合度



基準ライン

保護者のみなさまには、アンケートにご協力いただきありがとうございました。今回提出いただいたアンケート用紙は、594枚でした。前期に比べ、結果としてはおおむね肯定的な回答が多かったのですが、基準を下回る内容及び自由記述欄にお書きいただいた内容から、保護者の方々のおもいをうかがうことができました。学園運営協議会理事、企画推進委員の方からも、家庭と地域、学園が連携して、子どもの生活やそれを取り巻く家庭や地域社会の現状を把握し、子どもにどのような関わりが必要かを考えていくことが大切であるとご示唆いただきました。これらのこと踏まえ、子どもを中心に据えて、家庭と地域、学園が連携・協働した取組を進めながら、子どもをよりよく育んでいきたいと考えています。今後も引き続き、本学園教育にご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。